

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店（従業員）	・例年と比べてプレミアム付商品券の予算があり、しばらくは良い影響を及ぼすと期待している。
	◎	観光型ホテル（専務）	・秋のシーズンに入るため、団体、個人共に客は増えると期待している。
	◎	タクシー（統括者）	・運賃改定効果による客単価の上昇だけでなく、乗務員数も増加傾向であるため、総収入が増加すると見込んでいる。
	◎	ゴルフ場（営業）	・例年どおり、繁忙期は満場の日が多い。
	○	商店街（代表者）	・気候的に少し涼しくなり、新規の商店街がオープンするため、にぎわいが良くなることが期待できる。
	○	スーパー（総務担当）	・新米が出回り極端な低価格での販売が減少することで、幾らか来客数や買上点数の増加に結び付くことに期待している。
	○	コンビニ（エリア担当・店長）	・令和8年熊本地震の影響もあり、月末には売上が伸びたが一時的なものともみられる。このまま晴天や猛暑が続けば、来客数は若干伸びると予想されるが、気温が高すぎると外出機会が減り、前年並みに落ち着くと見込んでいる。
	○	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・移転により立地が良くなり、景気も良くなることが期待できる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・7～8月と例年になく来客数の多さが見受けられるが、3か月後には旅行シーズンを迎えるため、更なる需要増加が予想される。
	○	旅行代理店（統括者）	・観光に対する予算が大きくなっており、大手グループのキャンペーンも実施される。
	○	通信会社（社員）	・新しい商材が出るため、スタートダッシュを狙うことができる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・9月以降の予約は順調に推移しており、前年に引き続き海外からの来場も前年を上回ると予想している。
	○	理容室（経営者）	・涼しくなって動きやすくなると、現状に変化が出ると予想されるため、今後に期待している。
	○	美容室（経営者）	・2～3か月後は秋口になるため暑さも和らぎ、徐々に客のおしゃれ感覚が出て客の動きも出始める。徐々に上昇気運が現れることが期待できる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先において、ナフサ由来の塗料の入手が困難な状況から脱しつつあることから、若干好転すると期待している。
	□	商店街（代表者）	・当店では特に年金受給者が多く、収入は増えていないが、物価上昇が続き、支出が増加している。加えて、天候の影響により来客数が減少し、売上が良くなる可能性はない。
	□	商店街（代表者）	・景気が良くなる要因が全く見当たらず、悪い状態が続くとみられる。
	□	商店街（代表者）	・街の商店街は、長い間厳しい状況が続いているが、何とか前年比を保てるように社員一同で対策している。
	□	商店街（代表者）	・物価対策で始まったプレミアム付商品券で売上増加を期待したいが、多くの客が節約志向であるため、景気上昇には一定の効果しか期待できない。
	□	一般小売店〔青果〕（店長）	・県外商品が中心になっているため輸送コストを考えると、価格が高くなる。加えて暑さで来客数が伸びず、販売が難しい状況が続くことが予想される。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・令和8年熊本地震が発生し、前回の地震のときは建物に被害があったが、今回は対策工事をしていたため建物の被害もなく、物の落下等で済んでいる。8月はお盆があるため売上はある程度見込んでいるが、それ以外では少なくなる。2～3か月先は気候も良くなり、8月より回復すると期待している。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・例年敬老会で多くの注文が入る時期になり、売上に期待はできる。世界情勢の影響は、まだ続いているため売上が左右される。
	□	百貨店（企画担当）	・暑さが続き、秋冬商材の需要は遅れると予想している。
	□	百貨店（経理担当）	・物価高による節約志向は、今後も続くと考えられ、衣料品関連の売上は今後も余り期待できない。

☐	百貨店（営業担当）	・消費者物価指数が高止まりしているが、まだ値上げが続くことが懸念される。
☐	百貨店（経営企画担当）	・8～9月は猛暑が予想され、主要顧客である60～70代の来店への影響が大きく、今後数か月、来客数の増加は見込みにくいことから、売上環境は引き続き厳しい状況が続くとみられる。
☐	スーパー（店長）	・今後も物価上昇は続くと考え、消費者マインドは変わらないと判断している。
☐	スーパー（店員）	・食料品の消費税の減税はまだ先の話であり、生活は変わらない。
☐	スーパー（経理担当）	・中東情勢が不透明であるため、電気代等の高騰を懸念している。
☐	スーパー（従業員）	・中東情勢や関税、消費減税の有無等、明るい先行きが明示されていない。
☐	コンビニ（経営者）	・今のところ景気が上向くような要素は見当たらないが、下降するような状況もみられない。
☐	コンビニ（経営者）	・円安によるインバウンドの増加などプラスの影響もあり、来客数の改善が見込める。
☐	コンビニ（経営者）	・食料品を中心とした値上げに続き、ナフサを原料とする商品の値上げもあり、値上げに対しての抵抗力が限界にきている状況である。
☐	コンビニ（経営者）	・今後の消費税に関する施策により売上アップが期待される。
☐	コンビニ（エリア担当）	・今後の物価上昇に懸念がある。
☐	衣料品専門店（店長）	・状態が悪いままで景気は変わらない。
☐	衣料品専門店（取締役）	・世界情勢の混迷や猛暑、円安の定着などから、3か月先は更に物価が高騰している可能性もある。何一つ景気が良くなる材料がなく、先行きは現状と変わらないと予想している。
☐	家電量販店（店長）	・エアコンの省エネ基準改定を控え集客が増加し、しばらくは特需が続くと考えている。
☐	家電量販店（店長）	・来客数が増える要素が季節要因以外に見当たらない。
☐	家電量販店（店員）	・今後世界を含めた株価の値動きで大きく変わると推測される。
☐	家電量販店（従業員）	・急に暑くなり、冷房器具の需要が増えている。
☐	乗用車販売店（代表）	・状況が変わるような要因が見当たらない。
☐	住関連専門店（経営者）	・落ち着くとみられた中東情勢も先行き不透明となり、仕入原価の値上がりで物価高騰も続いている。プレミアム付商品券の発行で地域の活性化につながることを期待している。
☐	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・夏のコーヒー事業も一段落していることもあり、前年との比較で数字は変わらない状況である。残暑も続き、客の外出減少が考えられるため、景気は若干悪くなる。
☐	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・公開予定の映画に目ぼしい作品の見込みがない。人気玩具による高需要はあるが、シールほどのインパクトはないというのが実情である。人気の玩具や賃金のベースアップは当地でも耳にはするが、著しく景気が良くなることはないとみられる。特に建築資材や人件費の高騰により、建物の修繕工事もこれまで以上に滞る可能性がある。
☐	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・この先も傾向が変わるような話題が乏しく、円安、金利上昇が負の影響として捉えられている状況も変わらないと予想される。株価の乱高下に対する一般消費者の距離感も変わらず冷めたものと推察している。
☐	高級レストラン（経営者）	・今月は最も悪く、低調な状態である。この低迷が2～3か月先も続くのではないかと危惧している。
☐	一般レストラン（スタッフ）	・円安が続き、原材料が高騰しているため、値上げで対応している。そのため、売上は増加しているようにみえるが、その場しのぎで、見通しが立っていない。
☐	観光型ホテル（支配人）	・物価高騰や猛暑等の影響により、宿泊や宴会、婚礼と各部門の先予約が芳しくない。今期に入って各部門で前年割れをしている。
☐	旅行代理店（統括者）	・燃油や円安の動向が先行き不透明ではあるものの、大きな外的要因がみられない。
☐	タクシー運転手	・7月から運賃改定が行われ客単価が約10%増加したが、タクシー需要の伸び方は前年と比べて減っている。特に午前中の人動きが少ない。

□	タクシー運転手	・夏休みの間は自家用車やレンタカー利用が増えるため、タクシー利用が減る。夏休み以降はゴルフ客などが増えてくるため、持ち直すことが期待できる。
□	通信会社（企画担当）	・引き合いや相談は継続しており、顧客の情報収集や検討意欲も維持されている。一方で、案件化までには引き続き一定の期間を要する傾向がみられるため、今後2～3か月についても販売量は現状と大きく変わらず、横ばいで推移すると見込んでいる。
□	通信会社（企画担当）	・低価格志向が強まれば、安価な光回線サービスの需要が出てくる可能性はあるが、予想できない。
□	通信会社（営業担当）	・所得が増加する材料が見当たらない。
□	テーマパーク職員	・インバウンドが好調に推移しており、現状を損なう環境ではないと推察される。
□	観光名所（職員）	・生活必需品の高騰により景気の回復は難しい。
□	美容室（経営者）	・実際の経営状況は悪くなっていくと予想しているが、せめて横ばいであることを期待している。低価格で運営しており厳しい状況である。
□	美容室（店長）	・2か月先の景気に変化はない。給料や材料の支払で店の経営が難しくなっている。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・社員の採用環境は厳しく短期的な好転は見込めないため、当面、機会損失による損益悪化が懸念される。
□	設計事務所（所長）	・3か月後に現在の仕事の結果が出るため、現状が続く景気は変わらない。
□	住宅販売会社（従業員）	・総来客数の減少は見受けられるものの、新規顧客の来場は前月より微増しており商談の来客数も前月同様に推移している状況から、景気は変わらない。
▲	商店街（代表者）	・9月頃まで暑さが続く予想され不安が募っている。
▲	商店街（代表者）	・この猛暑で、とても客足が悪い。全体的に景気が悪くなっている。
▲	商店街（代表者）	・2～3か月後は現在より過ごしやすくなるが、食品関係の俊約は続く予想される。何もかもが値上げしているが、景気は良くならない。
▲	商店街（代表者）	・この暑さは2か月ほど続くとみられ、楽観的な見通しが立たない。
▲	百貨店（企画担当）	・高額品やインバウンドの売上に大きなマイナス要因は見当たらない。中東情勢などの物価に直接影響する問題の見通しが不透明であることが課題として残っている。
▲	百貨店（リーダー）	・贈物の時期も終わり、暑さが続くことを考えると、秋に向けての準備もなかなか着手できないと予想している。
▲	百貨店（業務担当）	・令和8年熊本地震の発生で、全ての動きが変わってしまった。終わりがみえない余震が続いているが、日常を取り戻すため、懸命に復興に向けて取り組んでいる。消費というよりも生活必需品が不足しており、景気の前に通常の生活に戻す期間になると考えている。
▲	百貨店（営業企画担当）	・物価高の影響から更に節約志向が高まると想定している。また、近年の気温の推移から従来の秋冬商材の販売機会の損失に影響すると予測している。
▲	スーパー（店長）	・国際情勢が好転する兆しがみえない。原材料の不足によって、多くの物品の単価は上昇する傾向がより強まっており、可処分所得は更に減少する。これにより生活防衛意識が一層高まり、消費意欲が低迷し、景気も横ばいから悪化傾向が続く。
▲	スーパー（企画担当）	・中東情勢の動向が不透明であり、円安によるインフレも進んでいるため、かなり売上に影響すると見込んでいる。消費者の買い控え傾向が更に進むことが懸念される。
▲	コンビニ（店長）	・中東情勢により、今後も経済への悪影響が続くのではないかと心配している。
▲	衣料品専門店	・依然として良くなる要素がない。
▲	家電量販店（従業員）	・中東情勢により物資不足の影響を懸念している。

	▲	スナック（経営者）	・中東情勢により石油不足への懸念が再燃し、加えて円安が進み、経済の先行きへの不安が高くなっている。気温30度を下回っていた7月前半に比べ、昼間の気温が35度を超え出した中旬以降夜の外出が少なく、猛暑が予想される8～9月の売上は期待できない。
	▲	都市型ホテル（販売担当）	・売上が減少するため、景気は悪くなる。
	▲	旅行代理店（職員）	・令和8年熊本地震の影響により、南九州行きのバスツアーの減少を懸念している。
	▲	通信会社（役員）	・生活物資や仕入単価の上昇が続いており、地域経済の好転の兆しがみえない。
	▲	設計事務所（所長）	・国際情勢や令和8年熊本地震の影響がこれから出てくると推測される。材料や製品の単価は下がらず、生活必需品の価格も落ち着かない。
	▲	設計事務所（代表）	・金利上昇や物価上昇による買い控えで、販売状況が悪くなる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・猛暑のため外出を控える人が多くなっているため、消費が減少している。エアコン代が高くなることも考えて支出を控えていることもあり、景気は若干悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・客は少しでも安いところで購入する傾向にあるため、景気は悪くなると見込んでいる。
	×	観光型ホテル（総務）	・7月末からの状況は良くなると予想しているが、前月比は悪くなる。3か月後も特に宴会の落ち込みが回復しないと想定している。
企業 動向 関連 (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	・A I 向け半導体の需要に対応するため、製造装置の需要が更に高まることが見込まれる。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・9月は主要都市への出版を控えており、買換え需要を見込んでいる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・材料の入荷が現在より回復し、恐らく底は抜けると考えている。客からの回答も同様で、現況よりも若干上向きになると予測され、その体制で動いている。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の業績目標や情報によると受注量が増加している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・有名半導体メーカーには到底及ばないが、取組次第では1～2年後に今までになかった案件を取り込めると見込んでいる。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・当社のどの顧客もマイナスな話はなく、見通しが明るい状況である。
	□	農林水産業（経営者）	・供給面では、原料となる鶏が様々な影響により少なくなり、工場のフル稼働とまではいかないため、商品供給に不安が残っている。消費も猛暑の影響により今一つ伸びがなく、8～10月まで厳しい内容になることを心配している。
	□	農林水産業（従業者）	・エルニーニョ現象による猛暑の影響により、九州の主力である秋作以降の作付が難しく、特に九州では適地適作の再検討が求められている。
	□	家具製造業（従業員）	・円安と物価高の連鎖で仕入価格の高騰に歯止めがきかず、利益確保が難しい状況が続く。
	□	化学工業（総務担当）	・中東情勢の影響等の世界経済の先行きが不透明であるが、前年度と比較しながら拡販等を進める予定である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量を増やすためには設備投資が必要であるが、客の発注数量の保障のリスクが出てくる。
	□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・中国向け車両生産の減少がしばらく続く見通しである。
	□	通信業（職員）	・今年度の受注目標と比較すると、営業先情報が大きく不足した状態が続いており、入札件名などの失注も発生している。今後の営業活動及び情報収集で充当する必要はあるが、現時点で見込みが立っていない。
	□	通信業（経理担当）	・令和8年熊本地震の被害による得意先を含めた影響を注視している。
	□	金融業（経営者）	・ここ数か月順調であったが、会員数の伸びに鈍化傾向がみられる。
	□	金融業（調査担当）	・中東情勢の懸念がいまだ残っているため、状況確認が続く。
	□	金融業（調査担当）	・物価動向や中東情勢に対する不安や先行きの不透明感が漂っており、景気は現状程度で推移すると予測している。

	☐	金融業（営業担当）	・取引先の中小企業は、物価高や人件費の高騰等を売上の増加に吸収できない状況が続いているため、当面低迷が続く見通しである。
	☐	金融業（営業）	・イラン情勢の影響などにより、物価の先行きは不透明である。中長期的に消費税の引下げの影響も予想がつかない。
	☐	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化がない。
	☐	経営コンサルタント（社員）	・今月も同様に販売促進を行う予定であるが、余り期待できない。
	▲	輸送業（従業員）	・商品等の高騰が続いていて、ディスカウントショップ等の動きは良いが、コンビニやスーパーマーケットの動きが悪い。
	▲	輸送業（総務担当）	・中東情勢の長期化に伴い、資材価格の高騰又は手に入りにくい状況に陥る可能性が高い。物流においてはかなり打撃を受ける。
	▲	不動産業（経営者）	・取引先や競合他社の話を聞いても、悪くなると予測している。
	▲	新聞社〔広告〕（担当者）	・令和8年熊本地震の影響もあり、様々な案件が中止になってきている。
	▲	広告代理店（従業員）	・3か月前と比較すると、今後3か月で景気が好転するとは考えにくく、やや悪くなると予想される。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・当初予算での業務の発注がほぼ終了し、補正予算の業務の発注も少ないため、今後受注できる可能性は低く景気が悪くなることが予想される。また、県内の市町村は令和8年度熊本地震の対応で予算を災害対応に充てる可能性があるため、補正予算による今後の発注量が少なくなり、景気がやや悪くなると予想される。
	×	繊維工業（営業担当）	・最低賃金がまだ上昇していて、どのように対応すればよいのか不安である。近隣の工場や商店では、倒産ではなく閉鎖が進んでいる。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・新規派遣登録者の就業開始時期が先付けで登録依頼を受けることが多いため、そこに合わせて受注稼働の動きをとることで、やや景気が良くなる。
	☐	人材派遣会社（社員）	・今後については、企業側の採用に対する慎重姿勢が続くとみられるものの、短期案件を中心とした依頼は継続する見込みであり、全体としては現状維持で推移するとみている。
	☐	人材派遣会社（社員）	・過去に取引があった企業を集中的に訪問しているが、人材採用については派遣ではなく、自社で対応している企業や対応予定の企業が約3割である。派遣料金の上昇で依頼が難しい企業もあり、今後の最低賃金引上げを危惧している企業が多い。
	☐	職業安定所（職員）	・令和8年熊本地震の影響や中東情勢等に伴う原材料価格の高騰等不透明な要因が多い。
	☐	職業安定所（職員）	・物価高騰などの懸念材料はあるが、景気への影響は抑えられていて、当面この状況は続くと考えている。
	☐	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響はあるものの、求人数は前年より増加し人手不足の声が多方面より上がっている。企業も価格転嫁等により何とか乗り切っているが、今後の景気は変わらない。
	☐	学校〔大学〕（就職支援業務）	・世界的な情勢不安や金融市場の変動、米国の追加関税の動きにより、企業の先行きへの不透明感は強まっている。これに伴い、人員計画や採用に慎重な姿勢が維持されており、一部では見直しの動きも見られる。人手不足で苦しむ業界もあるなか、新卒採用について売手市場が続くかは不透明である。物価上昇の影響もあり個人消費の力強さを欠くなか、短期的に景気が大きく改善する要因は乏しく、現状維持から大きな変化はないと考える。
	▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	・依然として高止まり感のある物価に加え、令和8年熊本地震も影響して、景気後退が懸念される。

	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・最近の家のリフォーム状況では、原材料価格の高騰に加え、イラン情勢によるナフサ不足の影響により資材の入荷が大きく遅れ、業者は更に値上げの可能性もあると示唆していて、生活の身近なところまで供給不安と価格上昇が及んでいる。企業側もコスト転嫁を続けざるを得ない状況が続いており、今後景気が良くなる材料は見えにくく、景気は今月より悪化に向かうと判断している。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・A I の台頭により I T 系の中小企業については、仕事量が減少している。今後は採用の方針を含め修正が入ると予測される。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・令和 8 年熊本地震による影響が大きく、特に県南地域は、被害がひどく、物流や経済がストップする状況になっている。市内でもイベントの中止などが相次ぎ、しばらく景気は後退すると危惧される。